

1年間の取組み 2022

KSU Annual Report 2022



九州産業大学

九州産業大学造形短期大学部
ZOKEI KYUSHU SANGYO UNIVERSITY, ZOKEI JUNIOR COLLEGE OF ART AND DESIGN

1年間の取組み2022



教育分野

1. 地域・企業・行政と連携して取り組む「KSUプロジェクト型教育」 1
2. 文理芸が融合した新たな教育プログラム「グローバル・フードビジネス・プログラム(GFBP)」の開設 2
3. 高度な専門知識とスキルを修得する全学プログラム「KSUアドバンスプログラム」の開設 2
4. 本学独自の給付型奨学金制度の改正 2



研究分野

1. 共同研究の推進 3
 - ・「九州産業大学×QTnet」ローカル5Gを利用した共同研究を本格稼働 3
 - ・食品大手企業と連携し、食の安全・安心を追求 3
2. 遺伝子・ゲノム研究の推進 3



国際化分野

1. スタンフォード大学SPICEとの連携教育プログラムを開始 4
2. KSU海外経験プログラムの拡充 4



産学連携分野

1. 「KSU VISION DAY 文×理×芸=展」による産学官連携の強化 5
2. 地域の課題解決を目指す金融機関との連携 6
 - ・福岡信用金庫との包括連携協定締結 6
 - ・福岡銀行と「若者向けPRの共同研究」を実施 6
 - ・遠賀信用金庫との「産学金連携事例報告会」を開催 6



社会・地域貢献分野

1. 地域の課題解決のための学生ボランティア活動 7
2. 産学官連携による地域振興プロジェクト 7
3. 美術館 アートキャラバン隊による地域貢献活動 7



ダイバーシティ分野

1. 九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムを開催 8
2. 全学部共通「ダイバーシティ」に関する講座開講 8
3. 「ダイバーシティ推進シンボルマーク」の決定 8



ブランディング分野

1. イメージを統一した広報活動「超えるを学ぶ。」を展開 9
2. 本学の魅力をタイムリーに発信する大学ホームページのリニューアル 9



経営基盤分野

1. キャンパスマスタープラン2022及び建物建て替え計画の策定 10
2. 九州産業大学テーマ募金の推進 10



数字で見る実績 11・12



多様な資質を
有する学生の
獲得および
文理芸が融合した
実践力をみがく
教育を実施する。



2025年度までの目標

- ▶ アドミッション・ポリシーに沿った優秀な学生の獲得
- ▶ 新時代に対応した教育プログラムの開発
- ▶ 教学マネジメントの確立
- ▶ ポストコロナ時代へ対応した支援の実施
- ▶ 実践力を育成する教育プログラムの推進
- ▶ 学年暦の柔軟化
- ▶ 学生の満足度を向上させる支援の実施
- ▶ 高等教育機関としての学び直しの推進

1. 地域・企業・行政と連携して取り組む「KSUプロジェクト型教育」

学生が学部・学科の域を超え、産学官連携による商品開発やプロモーション、技術開発、イベント開催など100件を超えるプロジェクトを実施。地域密着型チャリティーイベント「福岡サントウォーク in 千早」の開催や、学生がリフォームの企画から不動産賃貸支援までの実務に携わる家づくり教育プロジェクト「Re：部屋プロジェクト」の実施など、学生たちが現場を舞台に学びを繰り広げました。

また、福岡市中心部の商業施設（ソラリアプラザ）で、プロジェクトの成果を紹介する「九産大プロデュース展2023」を開催。学生の感性を生かしてデザインした伝統工芸品をはじめ、理工学部と芸術学部の学生が協力し製作した家具ロボットなど、学生の知恵が詰まった150点以上の作品を展示しました。



福岡サントウォーク in 千早



Re：部屋プロジェクト



伝統工芸品今宿人形「猿面」



家具ロボット

2. 文理芸が融合した新たな教育プログラム

「グローバル・フードビジネス・プログラム (GFBP)」の開設

グローバル化するフード産業において、世界で活躍できる「フードビジネスの未来の担い手」を育成する新たな教育プログラム「グローバル・フードビジネス・プログラム」を2023年4月に開設しました。

本プログラムでは、少人数教育かつ現場・実践力重視の学びを実施し、所属する学部の枠を越えて、文理芸の幅広い科目を学ぶことにより、フードビジネスに関する深い知見を養います。



<GFBPカリキュラム>

- GFBP 科目** グローバル・フードビジネスの基礎から実践までを学ぶ本プログラム独自の科目
(科目例：GFBの基礎、フードシステム論、フードビジネス論 など)
- 学部横断科目** ビジネスや食、グローバル、建築・デザインなどのフードビジネス関連科目
(科目例：流通ビジネス論、食品化学、アジア経済論、ソーシャルデザイン概論 など)

3. 高度な専門知識とスキルを修得する全学プログラム「KSUアドバンストプログラム」の開設

学生のやる気に応える組織的な支援を行う全学プログラム「KSUアドバンストプログラム」を2023年4月から開設。少人数教育で、将来の目標達成に必要な資格の取得や、より高度な専門知識・スキルの修得を支援し、社会の中核で活躍する人材の育成を目指します。

(プログラムの一例)

区分	プログラム名	プログラム内容
文系	観光人材総合育成プログラム	観光産業における優良企業(外資系、上場企業等)への人材を輩出するプログラム。TOEIC600点以上取得・国内旅行業務取扱管理者の資格取得と、論理的思考力の向上を目指す。
理工系	電気工事士資格取得支援プログラム	電機業界において汎用性も高く、就職に有利な国家資格である電気工事士(第一種、第二種)の資格取得を目指す。
芸術系	マンガ家デビュー作家育成プログラム	プロのマンガ家デビューに向け、物語構成、作画向上のノウハウ、投稿先へのアプローチ方法などの修得を目指す。



4. 本学独自の給付型奨学金制度の改正 (2023年度入学者から適用)

学生の学業奨励と学習意欲の向上を目的に、2023年4月に給付型奨学金制度の一部を改正。制度の対象となる要件の範囲や採用人数を拡大しました。

中村治四郎奨学金 (新入生対象)

- ▶ 学業特待枠 : 4年間の長期認定枠と単年度認定枠あり
年間授業料相当額の全額もしくは半額を給付
- ▶ 学術文化特待枠 : 単年度認定枠
年間授業料相当額を給付

成績優秀者奨学金 (2年次以降対象)

- ▶ 前年度の成績をもとに毎年認定
- ▶ 学業成績優秀者約360名に対して、20万円から最大60万円を給付



研究力の向上を目指すとともに、大学院の改革を行い教育研究体制の充実を図る。



2025年度までの目標

- ▶ 文理芸を融合した学際的研究の推進
- ▶ 研究実績の拡大
- ▶ 産業界と連携した研究の推進
- ▶ 優秀な大学院生の獲得
- ▶ 大学院の改革

1. 共同研究の推進

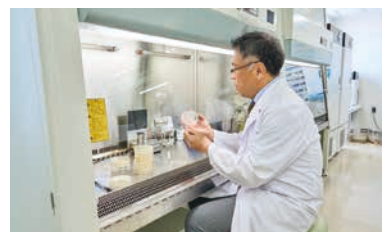
「九州産業大学 × QTnet」ローカル5Gを利用した共同研究を本格稼働

株式会社QTnetとの共同研究契約に基づき、本学キャンパスに独立したローカル5Gネットワークを構築。外部ネットワークの制限を受けない5G環境において、5Gの特長を生かした新たな利用方法について研究を開始しました。「文・理・芸」様々な分野で5Gを活用した社会課題の解決や新たなサービスの創造への研究開発を推進するとともに、学生の参画による人材育成にも取り組んでいきます。



食品大手企業と連携し、食の安全・安心を追求

本学では、独自の研究支援制度「実用化支援研究費」により、研究者の特色・特長のある研究を戦略的に推進し、研究成果の実用化に向けた支援を行っています。本研究費により設立した「食品微生物制御センター」では、割り出した微生物の特徴をデータベース化して、食品業界に広く展開するための研究に取り組んでいます。データベースを食品各社で相互利用することで、食品事故の早期解決や賞味期限の延長に役立てます。



2. 遺伝子・ゲノム研究の推進

生命科学部では、ヒトのがんに関わる遺伝子の研究を通じ、診断や治療法の開発につながる研究「遺伝子ゲノム研究」を進めています。成果の一つとして、本研究における学術論文が他の論文に引用された数が年間300件を超えたほか、企業と連携した共同研究では、機能性表示食品の製品化に向けた支援を行いました。2023年に新たに設立した遺伝子・ゲノム研究センターにて、さらなる研究の推進を図ります。



国際化分野 Globalization

留学プログラムの充実を図り、様々な海外経験を通じて、グローバル人材の育成を目指す。



2025年度までの目標

- ▶ 国際感覚を養うプログラムの展開
- ▶ 学生の海外経験の増加及び留学支援体制の強化
- ▶ 優秀な留学生の獲得及び支援の強化
- ▶ 海外大学・組織等との連携の強化
- ▶ 国際化を推進する体制の整備

1. スタンフォード大学SPICEとの連携教育プログラムを開始

スタンフォード大学SPICE*と共同で、スタンフォード大学SPICEが展開する多文化理解教育プログラムを本学向けにアレンジした「Stanford e-KyuSan-U」を2023年4月から開講しました。このプログラムは2020年度から開始した「グローバル・リーダーシップ・プログラム」を、よりグローバルな視点を持ち、世界で活躍できる人材の育成を目指して強化するため導入したものです。

プログラムでは、「多様性 (Diversity)」「持続可能性 (Sustainability)」「起業家精神 (Entrepreneurship)」という3つのテーマについて英語によるオンライン授業を実施し、国際社会で活躍できる人材育成を目指します。

※ SPICE (Stanford Program on International and Cross-Cultural Education) : 初等教育から高等教育までのカリキュラム開発や教員の専門性開発、遠隔学習コースの開発を行っているスタンフォード大学の部局



2. KSU 海外経験プログラムの拡充

異文化を理解しグローバル社会に対応できる人材を育成するため、海外経験プログラムの拡充と支援の充実を図りました。

多くの学生に入学後早い段階で海外経験の機会を与えることを目的に、個人留学支援制度ではカテゴリーと支援金額を増やし、学部授業の一環で行う海外研修等においても、プログラム費用の一部を支援します。



個人留学支援制度
カテゴリー

- ①語学研修 ②ボランティア ③就労体験 ④芸術 ⑤スポーツ
- ⑥自己啓発 ⑦異文化体験 ⑧オンライン留学 ⑨初めての海外 ⑩その他



企業との共同研究や、
大学発ベンチャーの
設立など研究成果の
社会実装を目指し、
産学連携を強化する。

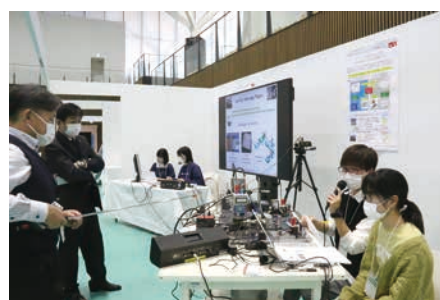


2025年度までの目標

- ▶ 社会性の高い研究の促進
- ▶ 産学官連携を強化するネットワークの構築
- ▶ 大学発ベンチャーの育成

1. 「KSU VISION DAY 文×理×芸=展」による産学官連携の強化

自治体・企業とのマッチングや教員同士の交流、地域社会への研究成果の還元を目的として、本学キャンパス内にある大楠アリーナ2020で「KSU VISION DAY 文×理×芸=展」を開催し、1,300名を超える方が来場しました。本学が有する文系・理工系・芸術系学部の研究シーズや研究成果に加え、企業や自治体と連携して取り組むプロジェクト型教育やボランティア活動など131のブースを紹介したほか、株式会社QTnet 代表取締役社長岩崎和人氏による基調講演も行われました。さらに、産学官連携プロジェクトの地域社会への発信により、産学連携や、共同研究に関する相談が多数寄せられるなど、新たな産業界との連携の促進に繋がりました。



2. 地域の課題解決を目指す金融機関との連携

新たに包括連携協定を締結した福岡信用金庫を含む、地元金融機関との連携を拡大し、地元企業の課題解決に協働で取り組むほか、大学の研究シーズを社会に還元することで、産学連携活動の発展を目指しています。

福岡信用金庫との包括連携協定締結

福岡信用金庫の顧客である地元企業の課題解決に、大学の知見を生かして協力するほか、学生の起業相談にご協力いただくなど、両者で地域経済の活性化と地域経済を担う人材の育成に取り組んでいます。

また、本締結に伴い、「かしいスクエア(福岡市)」のオープニングイベントとして、芸術学部の学生がビルの壁に花火や提灯をプロジェクションマッピングで映し出すイベント「縁日～縁を結ぶ日～」を実施しました。



福岡銀行と「若者向けPRの共同研究」を実施

商学部と福岡銀行が共同で、金融リテラシーの向上に向けた多彩な取り組みを行っています。「若者向けPRの共同研究」においては、学生が、若者向けに販売する商品についての動画広告制作を提案したほか、「金融に対する若者の関心度」について同社担当者に現状報告とアプローチ方法の提案等を行いました。



遠賀信用金庫との「産学金連携事例報告会」を開催

本学と包括連携協定を結ぶ遠賀信用金庫の取引企業との更なる連携を促進することを目的として、「産学金連携事例報告会」を開催しました。報告会では、芸術学部や造形短期大学部が取り組むデザインプロジェクト3事例を紹介しました。今後はさらなる連携を深め、新事業の開発や地方創生に貢献していきます。



連携事例

- ・パッケージデザインプロジェクト
- ・移動販売車の内外装デザインプロジェクト
- ・包装紙開発プロジェクト



地域の課題解決に向けた取り組みや本学施設を利用した交流などを通じて、地域に貢献する大学を目指す。



2025年度までの目標

- ▶ 地域社会の課題解決へ向けた貢献活動の推進
- ▶ 本学の施設を活用した地域との交流
- ▶ 地域に向けた知の発信

1. 地域の課題解決のための学生ボランティア活動

本学は、地域社会への貢献を目的に、復興支援ボランティア活動および地域の課題解決のためのボランティア活動に取り組んでいます。2022年度は700名以上の学生・教職員が被災地の復興支援や地域のニーズに対応した活動を実施しました。

主な活動

- ・復興支援ボランティア(朝倉市や大牟田市など)…250名以上
- ・福岡トライアスロンボランティア…220名以上
- ・海ごみゼロ活動(名島海岸での海洋ごみ清掃)…50名以上



福岡トライアスロンボランティア



海ごみゼロ活動

2. 産学官連携による地域振興プロジェクト

九州電力株式会社福岡支店や朝倉市、宗像市と連携して、防災や産業復興に関するプロジェクトを推進しています。宗像市との連携においては、学生提案による地域振興プロジェクトが、地域活性化を目的とした「宗像市元気な島づくり事業補助金」に採択されました。コロナ禍で観光客が減少している離島の大島と地島の魅力を伝えるため、学生視点でパンフレットを制作し、情報発信策を提案しました。



3. 美術館 アートキャラバン隊による地域貢献活動

アートキャラバン隊では、文化芸術活動の振興や地域社会との連携強化を目的に、地域の小学生・高齢者等を対象としたワークショップを実施しています。近隣の小学校やリハビリテーション病院にて実施した「お出かけ鑑賞教室」では、本学美術館の収蔵作品について、幅広い視野で鑑賞してもらうために、学生・学芸員が参加者と対話をしながら作品鑑賞を行いました。





ダイバーシティ分野 Diversity

多様な人々が
集い学が
インクルーシブな
大学運営を行う。



2025年度までの目標

- ▶ 男女共同参画社会を担う学生の育成
- ▶ 多様な学生への支援
- ▶ 多様な教職員の参画機会拡大

1. 九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムを開催

「九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク(Q-wea)」との共催による女性研究者支援シンポジウムを開催しました。ウェルビーイングの視点から考える大学の果たすべき役割や、ジェンダー・ダイバーシティの実現に向けた女性研究者の更なる活躍について活発な議論を行いました。



2. 全学部共通「ダイバーシティ」に関する講座開講

男女共同参画や異文化交流、障がい者雇用など様々な観点からダイバーシティについて学ぶ講座を新たに開講しました。授業はオムニバス形式で実施し、様々な分野の教員が、それぞれの視点からダイバーシティについて講義を実施。ダイバーシティへの理解や推進への取り組み、自身のキャリア形成などについて考えました。



3. 「ダイバーシティ推進シンボルマーク」の決定

本学のダイバーシティ推進基本方針に基づき、多様性を尊重する大学の実現に向けたダイバーシティ推進の一環として、学生から「ダイバーシティ推進シンボルマーク」のデザインを募集。35件の応募の中から芸術学部生のデザインが採用されました。

シンボルマークは、本学のシンボルツリーである大楠をモチーフに、大学を根、社会を幹とし、大学から社会全体に広がっていく様子をレインボーカラーで表現。今後も様々な機会でも活用し、ダイバーシティ推進に向けた啓蒙活動を行っていきます。





ブランディング分野 Branding

本学ならではの
ブランドイメージの
構築を図り、
産業界や地域への
広報・広聴活動を
拡充する。



2025年度までの目標

- ▶ 本学ならではのイメージ構築（「もっと意外に。もっと自由に。」）
- ▶ 産業界や地域への広報・広聴機能の拡充

1. イメージを統一した広報活動「超えるを学ぶ。」を展開

本学の中期計画目標である「文理芸融合のグローバル総合大学へ」を象徴する新ビジュアル「超えるを学ぶ。」を掲げ、CMや駅看板広告を始めとする各メディアで展開しました。イメージの統一性を確保した広報活動の実施により、各ステークホルダーへの本学認知イメージの更なる浸透を図ります。



2. 本学の魅力をタイムリーに発信する大学ホームページのリニューアル

多様なユーザーに対応した分かりやすさの向上と内容の充実を重視した、ホームページのリニューアルを行いました。各学部の新規情報を掲載したニュースサイトやイベント情報サイトを構築し、コンテンツを充実させたほか、閲覧いただきたい情報をわかりやすい位置に配置することで、ユーザーの利便性向上を図りました。





経営基盤分野 University Management

教育分野

研究分野

国際化分野

産学連携分野

社会・地域貢献分野

ダイバーシティ分野

ブランディング分野

経営基盤分野

数字で見る実績

財務体質や
大学運営の
基盤強化および
職員のさらなる
能力向上を目指す。



2025年度までの目標

- ▶ 継続的な組織改革
- ▶ 教員組織の充実
- ▶ 業務改革・効率化
- ▶ IR機能の強化
- ▶ 同窓会・卒業生との関係強化
- ▶ 事務職員の能力開発
- ▶ ガバナンスの強化
- ▶ 財政基盤の一層の強化
- ▶ 将来を見据えたキャンパス整備

1. キャンパスマスタープラン2022及び建物建て替え計画の策定

本学の将来を見据えたキャンパス整備の基本方針「キャンパスマスタープラン」を改訂しました。

「地域と共生し環境にやさしく安全・安心で学生や教職員が誇りを持てるキャンパスづくり」の基本理念のもと、時代の変化に対応した新たな視点を織り込み、大学の顔となる正門・北門の整備、老朽化に伴う建て替え整備など、持続可能なキャンパス整備を行います。



2. 九州産業大学テーマ募金の推進

本学のグローバル人材の育成やSDGsの推進など、本学の取組みの中から、特色あるテーマを選んでご寄付をいただく用途指定型の募金事業「九州産業大学テーマ募金」を推進しています。2022年度は、教育プログラムや奨学金制度の充実などについて、皆様からの多大なご支援をいただき、目標寄付金額を達成することができました。皆様からのご支援は対象テーマ事業を推進するための資金として大切に活用させていただきます。

(募金テーマ例)

支援分野	募金テーマ
教育分野	グローバル人材育成プログラムの推進
研究分野	特色ある研究の推進
課外活動分野	サークル活動の活性化



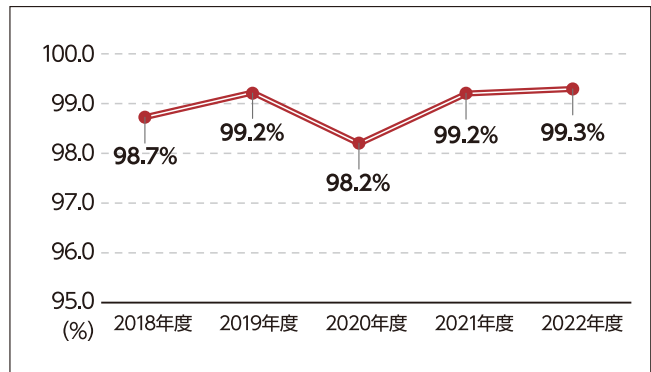


数字で見る実績

就職決定率(対就職希望者)

過去最高に並んだ昨年度をさらに0.1ポイント上回る99.3%の就職決定率を達成しました。企業の採用意欲の高まりに加え、教職員が一体となった学生支援が実を結び就職率向上に繋がりました。

※ 年度数値は、5月1日現在
例) 2022年度：2023年5月1日現在の就職決定率

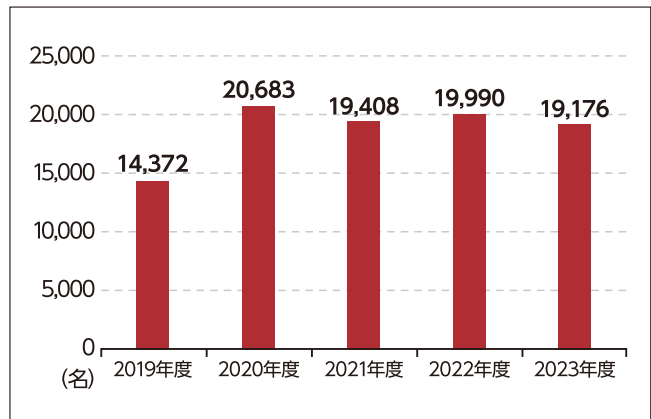


志願者数

延べ志願者数は、4年連続1万9千人を超えたものの、前年度からは微減となりました。

今後も本学の魅力を高めるとともに、入試広報活動による本学の魅力発信の強化を図ります。

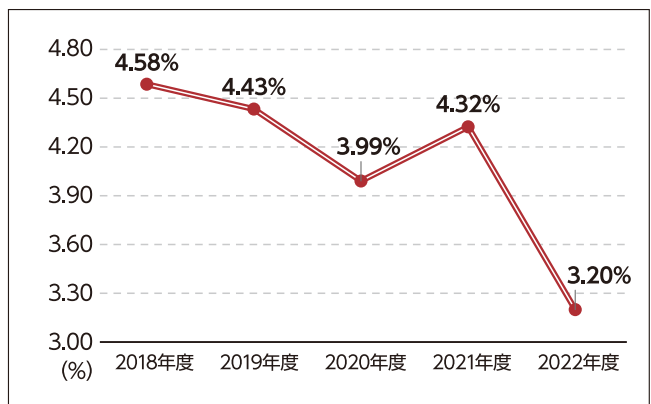
※ 年度数値は、4月1日現在
例) 2023年度：2023年4月入学希望の志願者



除籍・退学率

除籍・退学率は、昨年度から1.1ポイント減少の3.2%を記録し、過去最低水準となりました。コロナの収束に伴う対面による授業の再開や、継続的な学生指導によって、大幅に除籍・退学者数が減少しました。

※ 年度数値は、4月1日現在
例) 2022年度：2023年3月31日現在の除籍・退学率



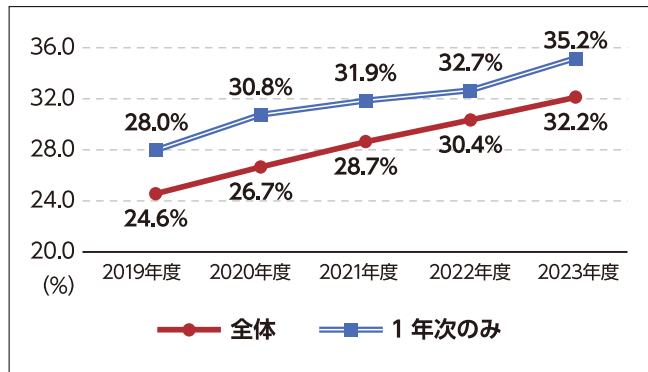
女子学生比率

女子学生比率全体 32.2%
(前年度差+1.8ポイント)

1年次のみ 35.2%
(前年度差+2.5ポイント)

女子学生の活動支援の充実や多様な学生が学び集うキャンパス環境・制度作りなどを継続して行っています。

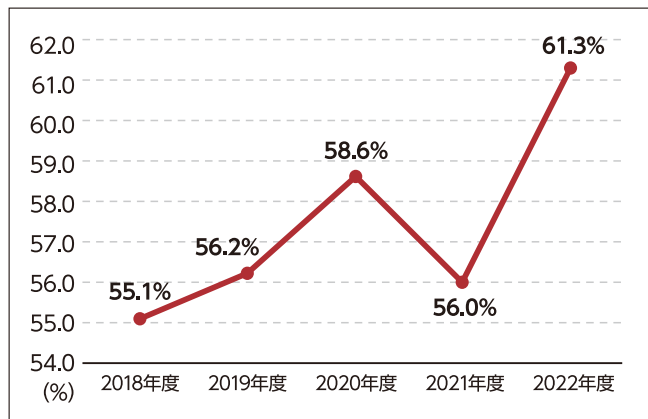
※ 年度数値は、4月1日現在
例) 2023年度：2023年4月1日現在の女子学生比率



サークル加入率

学生のサークル加入率は、コロナ禍においても、新入生歓迎行事やサークル勧誘などを積極的に展開したことで、前年度差5.3ポイントアップの過去5年で最高の61.3%となりました。

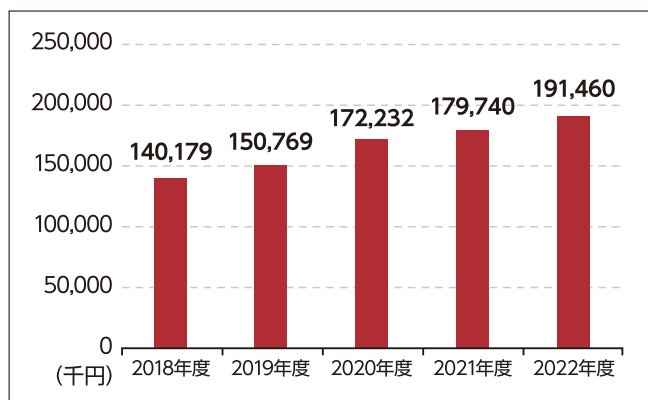
今後も課外活動支援の拡充を行い、学生生活の充実を図ります。



受託研究・共同研究数の増加 (外部資金獲得)

URA※を中心とした教員と企業・自治体とのマッチングなど、産業界・自治体との連携活動を推進したことにより、受託研究・共同研究数が増加しました。

外部から獲得する研究資金である外部資金の獲得総額(科学研究費補助金を含む)は、昨年を大きく上回る約1億9千万円となりました。



※ University Research Administrator :
研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化を支える人材

「1年間の取組み2022」動画は
こちらからご覧ください。



KYUSHU
SANGYO
UNIVERSITY

九州産業大学



九州産業大学造形短期大学部
ZOKEI KYUSHU SANGYO UNIVERSITY, ZOKEI JUNIOR COLLEGE OF ART AND DESIGN

【発行】 学校法人中村産業学園 総合企画部企画課

〒813-8503 福岡県福岡市東区松香台二丁目3-1

TEL (092) 673-5505 | FAX (092) 673-5025 | E-mail kikaku@ml.kyusan-u.ac.jp